Mite Mite

「人と、街と、劇場をつなぐ。」 オーバード・ホール情報誌

2021-summer
VOL. 69

開館25周年

AUBADE HALL

音楽は、人生に愛と豊かさをもたらすもの。

アンドレア・バッティストーニ　Andrea Battistoni

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレーナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリインスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演。日本コロムビア株式会社より東京フィルとのコンビでCDのリリースを継続中。著書に『マエストロ・バッティストーニの ぼくたちのクラシック音楽』(2017年・音楽之友社)。

オーバード・ホール開館25周年記念

アンドレア・バッティストーニ指揮 × 東京フィルハーモニー交響楽団

Interview　東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者
アンドレア・バッティストーニ

イタリアの若きマエストロ、アンドレア・バッティストーニ。その知的で物静かな風貌は指揮台にあがると別人のように精悍になり、オーケストラから多彩なサウンドを引き出す。11月には強い絆で結ばれた東京フィルハーモニー交響楽団を率いてオーバード・ホールに初登場。バッティストーニの音楽はなぜ“面白い”のか？ オペラを指揮するためにオーストラリアに滞在中のマエストロに話を聞いた。

── 今年1月と5月に来日されました。それぞれ2週間の隔離期間を経て東京フィルハーモニー交響楽団の演奏会を指揮しています。オーケストラとの再会はいかがでしたか？

昨年は来日が中止になり、1年ぶりに東京フィルのメンバーと再会した時には心から嬉しかったです。オーケストラも活動を中止していた期間がありましたから、一緒に演奏する、一緒に音楽を作る方法を取り戻す作業が必要でした。5月には規模の大きな作品も演奏し、以前のレベルを完全に取り戻したと思います。

── 富山で演奏する曲目について教えてください。

オーバード・ホールが開館25周年とのことで、祝祭的な意味を込めて前半にはイタリア・オペラの華やかな名曲を演奏します。ヴェルディの《運命の力》序曲は、音楽が素晴らしいだけでなく、この奇妙な時期を象徴する面があるかもしれません。“運命”はこんなにも予想がつかないのだと…。プッチーニの《マノン・レスコー》間奏曲はイタリアの〈歌〉の美しさが凝縮されています。東京フィルの特徴の一つはよく歌うオーケストラであることで、その良さが出る曲だといえます。そしてロッシーニの《ウィリアム・テル》序曲はまさに音楽の花火のようです。祝典にふさわしいと思い選びました。

── 後半で演奏するのはチャイコフスキーの交響曲第5番です。チャイコフスキーの良さはどこにあると思いますか？

チャイコフスキーが常に聴衆に愛されてきたのは、彼の内面を音楽がとても大きな力で語っているからだと思います。中でも第5番はインスピレーションに溢れたメロディーがたくさんあり、聴く人の心に真っすぐに届く作品です。

── マエストロはチェロを学んだ後、オーケストラの魅力を発見して指揮者になられたそうですが転機はどうやって訪れたのですか？

劇的な変化が訪れたのは14歳の頃でした。それまではルーティーンで音楽を勉強していましたが、ある日の授業でオーケストラの一員として演奏したことにより、その魅力を発見したのです。それ以来、音楽が僕に直接語りかけてくるようになりました。その後、オーケストラの中では楽器奏者より指揮者の方がずっと楽しそうだなと思い始めて(笑)。幸運にもそれが自分の道となりました。

── 音楽を学ぶ若者に何かアドバイスはありますか？

言えることがあるとすれば、幅広いジャンルの芸術に触れるのが重要だということです。例えばピカソの展覧会に行って感動しなくても、他の美術は好きかもしれない。誰にでもその人に響く芸術というのは必ずあるのです。全てを好きになる必要はありません。僕が「ブラームスは好きじゃない」と言うと皆に驚かれるのですが、価値を理解しても好きになれないものはあります。でも10年後はまた変わっているかもしれません。

── 時間と共に変化していく楽しみもありますね。芸術はそれを鑑賞する人にもさまざまな出会いをもたらすと思います。私たちの生活に音楽はどのような役割を担っているのでしょう？

音楽は人生に愛と豊かさをもたらすものだと思います。私たちを必ず待っていてくれる避難所のようなものです。インスピレーションや力、そして美しさを与えてくれる。オフィスで大変なことがあった後で、家に帰って音楽を聴く。なにもクラシックに限りません。そこで日常を離れて別の世界に入ることができる。アートは時に純粋にエンターテインメントでもあります。そして深遠なる芸術は私たちの魂をなぐさめ、私たちを考えさせます。

── マエストロは日本の地方都市で指揮をすることも多いですが、それぞれの土地柄を感じることはありますか？

新しい都市を訪れると必ず何か新しい発見があります。お客さんの反応も町ごとに違います。日本でもっとも驚くのは各地に本当に素晴らしいコンサートホールがあることです。オーバード・ホールは施設が整った美しいホールとのことなのでとても楽しみです。

©上野隆文

©上野隆文

── 富山のグルメもぜひ味わってください。新鮮な海の幸に恵まれていて、中でもシロエビは有名です！

それはぜひトライしたいです。やはり、その土地の食事が記憶に残ることは多いです。ある町で《蝶々夫人》を指揮した時には、そこで食べたカレーが一番の思い出になったことも(笑)。

── 最後にコンサートへの抱負をお聞かせください。

富山を初めて訪れるのが楽しみです。オーバード・ホールのお祝いのために東京フィルと最高の演奏をお届けします。昨年からの困難だった時期の後、音楽が皆さんに大きな喜びをもたらすよう願っています。

聞き手・文　井内美香(音楽ライター)

曲目

第1部	ヴェルディ：歌劇「運命の力」序曲 プッチーニ：歌劇「マノン・レスコー」間奏曲 ロッシーニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲
第2部	チャイコフスキー：交響曲第5番

公演情報

オーバード・ホール開館25周年記念
アンドレア・バッティストーニ指揮
東京フィルハーモニー交響楽団

◆日時：2021年11月6日(土) 15:00開演
◆会場：オーバード・ホール
◆チケット：[全席指定・税込]
S席：8,000円　A席：6,000円　B席：4,000円　U-25：2,000円
※U-25：鑑賞時25歳以下対象。公演当日の空席よりお席をご用意します。
※未就学児入場不可。
◆チケット発売日：アスネット会員先行：8月7日(土)のみ
一般発売：8月15日(日)～
◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

オーバード・ホール開館25周年記念

めにみえない みみにしたい

マームとジプシーの藤田貴大（ふじた たかひろ）が手がけた、子どもから大人まで一緒に楽しめる演劇作品、『めにみえない みみにしたい』。大きな布を森に見立てたり、じゃんけん、しりとり、しゃぼん玉などの仕掛けがいっぱい！その一方で、少女の自立や戦争というモチーフもあわせもち、大人の心もつかみます。2018年の初演、2019年には全国14都市をツアーした話題作が、この夏いよいよ富山にやってきます。作・演出の藤田貴大さんにお話を伺いました。

© 井上佐由紀

演劇作家 藤田貴大 インタビュー

プロフィール
1985年生まれ。マームとジプシー主宰。演劇作家。2007年にマームとジプシーを旗揚げ。2011年に3連作「かえりの合図、まってた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。」で第56回岸田國士戯曲賞を受賞。2015年、今日マチ子原作の「cocoon」（再演）で第23回読売演劇大賞優秀演出家を受賞。2007年7月、初の小説集「季節を告げる轟轟は夜が知った毛毛毛毛」（河出書房新社）を上梓。

子供向けの作品をつくったきっかけは？

20代の頃は、18歳までの自分の記憶をモチーフに作品を描いていました。そのため、当時は同世代の俳優さんに子どもを演じてもらっていました。26歳の時、3連作「かえりの合図、まってた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。」で岸田戯曲賞を頂いたことをきっかけに、**「自分」というモチーフから離れなきゃ、**と思ったんです。ただ、自分の中で「子ども」というモチーフは大切なものであり続けていたので、僕の作品に子ども達が出演するようになっていきました。

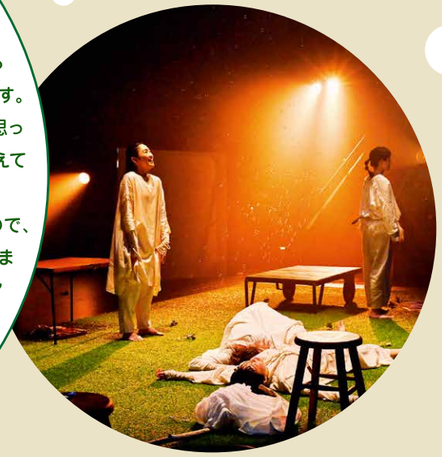
そんな経験も踏まえ、今度はもっと多くの子ども達に**僕の演劇を体験してもらいたい**と思っていたところに子ども向けの作品をつくらないか、と提案していただきました。最初は作品のモチーフというだけでしたが、実際に子ども達との作品づくりを経て、今ここに至っている感じです。

演出のこだわりを教えてください

大人も子どもも一緒に楽しめる作品をつくりたいと思いました。子どもが約1時間飽きないように、話のテンポを普段より速くして、シャボン玉など大人にも懐かしい遊びの要素を演出に盛り込みました。

映画で雨を降らせることがありますが、映画の中では作り物の雨を本物の雨のように見せますよね。演劇の場合、同じ空間で全てが行われるので、どこからシャボン玉が出てくるかなども お客さんは見ることができます。それが、逆に面白い。演劇のいい意味での**「華奢さ」を観せたい**と思っています。それは画面とは違う手触りを感じることができると思うので、あえて何も隠さずにやりたいなと。

そして、作品と子ども達とが一体化した演劇空間が僕の見たい風景なので、客席と舞台をわかりやすく分けるのではなく舞台と同じ目線に客席を作りました。その光景を観て、何十年か先の未来を想像できるように、ビジュアルも音もつくっていきたいと思っています。また、僕たちのパフォーマンスを目の当たりにした子ども達は、僕らが見ることのできない「未来」を作る人たちであることを意識しています。そんな子どもたちに向けた**祈りのような気持ち**が裏テーマとしてあります。



初演と変わるところは？

この作品は「赤ずきん」や「ヘンゼルとグレーテル」といったアンデルセンやグリム童話でよくあるモチーフを使い、「外に出て、何かに出会う」ことを描いています。お客さんは、**家を出て、劇場に何かを探しにくる、**という動機があるからこそ演劇表現が成り立っていますが、コロナ禍では、作品の響き方は前回の上演から全然違うと思います。

演劇って「再演」という不思議な言葉があるじゃないですか。映画でいう「再上映」では、俳優さんは撮影当時の姿で出てくるし、亡くなった人も作品の中では生きています。でも演劇における再演は映画とは違い、2年とはいえ、関わる人全てが**2年分の歳を重ねているんです。**だからこそ「今」という時間を絶対に無視できないですし、作品も全然違うものになると思っています。

子ども達と一体化した演劇空間が、僕の見たい風景。

推奨4歳以上、2歳未満の膝上鑑賞OKとは

演劇を観に行きたいけど、託児サービスがないと観に行けないという方が結構おられます。そんな方にも演劇を観に来る「場」を創るっていうのもコンセプトのひとつ。どんな方でも気軽に来れて、**お子さんが泣いたとしても、そのことが許容される**ような居心地のいい環境を、表現以前のところで目指しています。劇場の暗やみにじっと座って見るだけが演劇の鑑賞ではないし、僕らとしてもとがった作品だけを見せるのが全てではない。どんな人でも観れる、風通しのよい環境を実現させて、多くの人に楽しんでもらいたいですね。

あらすじ

おねしょに悩むおんなのこは、飼い猫のにゃあにゃあちゃんから聞いた古い言い伝えを叶えるため、夜の森へ出かけて行きます。おかあさんも子どものころに出かけた森には、たくさんの動物たちや不思議な生き物、妖精たちが住んでいました。
森で出会った狩人に案内されて森の奥へ進むおんなのこ。やがて辿りついた古いおうち。となりの森と戦争が始まろうとする中、おんなのこが古いおうちで見たのは……。

コロナ禍での演劇についての思いは？

飲食を生業にされている方の「営み」がお店にあるように、僕らの「営み」は劇場にあります。このような状況であっても、僕がお店で美味しいものを食べたいと思うように、お客さんに劇場で演劇を観たいと思っていただけるように僕らが仕掛けていくしかない。料理人が仕込むように、**劇場で良い作品を仕込んでいくしかない**と思っています。お客さんはチケット料金以上に、いろんなリスクやハードルを超えて観に来てくださっていると思います。だからこそ「家を出て、劇場に訪れて、僕の作品を観ることを選んで良かった」と思ってもらえるように、**できる限りのもてなし**をしたいです。

撮影：細野晋司

公演情報

オーバード・ホール開館25周年記念
AUBADE小劇場1
めにみえない みみにしたい

◆作・演出：藤田貴大
音楽：原田郁子
衣装：suzuki takayuki
出演：伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

◆日時：2021年8月16日（月）
①11:30開演　②15:00開演　（全2回公演）

◆会場：オーバード・ホール舞台上特設シアター

◆チケット：［全席自由・整理番号付き・税込］
一般：2,000円　小学生以下：1,000円
※推奨年齢：4歳以上
※2歳未満の膝上鑑賞は無料（保護者1名につき、お子さま1名まで）
※本公演は客席の一部は芝生席となります。

◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

ヒャクマンベン＋マリコウジ

現代コントと新作狂言が同時に楽しめる
「ヒャクマンベン+マリコウジ」。
公演に先駆けて、6月、富山に訪れた茂山千之丞氏にインタビュー。
聞き手は富山在住の演劇研究者・笹山敬輔さんです。

── 狂言といえば伝統芸能のイメージがありますが、新作が次々と生まれていることに驚きました。

茂山千五郎家には約180番の狂言がありますが、よく上演する作品は1/3程度です。時代の移り変わりによって、現代では上演しづらい作品も増えてきました。例えば和歌や連歌を題材にした内容だと、何が起きているかお客様が分からない、だからウケないんですね。作品の数はその芸能の体力でもあるので、この状況を何とかしたかった。そこで「マリコウジ」では、百年後に古典になるかもしれない作品をつくっています。狂言のスタイルは変えていないので、知らない人が見たら古典と思うかもしれません。

── 新作狂言をつくる際には、「狂言らしさとは何か」が問われるように思うのですが、いかがですか？

たしかに、新作のなかには限りなく現代劇に近い狂言もあれば、「マリコウジ」のように古典らしい新作もあります。つきつめると、狂言師が「これが狂言だ」といえば狂言になる。つまり、その芸能であるかどうかは、役者の身体性が担保しているように思います。狂言師の身体に入っている技術が出てしまうかぎりは、狂言といえるのではないでしょうか。

── ある対談で「狂言の言い方で横文字を言ったらウケるけど、そんなのはやってもしょうがない」とおっしゃられていましたが、狂言を現代のエンタメにする上で、守っていることはありますか？

笑いを感動の出しに使わないというのが、喜劇をやってる人間の矜持（きょうじ）ですね。笑いを追求しているからには、笑いがメインであるべきだと考えています。そのうえで、テーマは現代のことから拾う場合が多いかな。『鬼ヶ酒屋』という作品では、テーマが東京の新大久保で起きたヘイトスピーチなんですね。でも、初見で気づく人はそんなにいないと思います。それくらいに希釈してお出しする。切実な問題のなかにも笑いがまぎれていることが多いので、つねにアンテナをはって、そういったものを掬い上げています。

── 「マリコウジ」に対して、「ヒャクマンベン」は全くスタイルの違う現代コントですね。はじめたきっかけは何ですか？

新作狂言をつくっていると、面白いけど狂言にはしにくいものがでてきました。無理すればできるけど、現代劇のほうが面白い。どこかでやりたいとずっと思っていて、2013年から新作コントの公演をはじめました。お客さんは、「何だこれは!?」と思いながら笑ってくれます。僕は、ちょっとだけ不条理な感覚が入っていて、見ている人に「不安」を感じさせるような作品が好きなんです。

── 千之丞さんは現代コントのほかにも、現代演劇に数多く出演しています。その経験が狂言に影響を与えることはありますか？

役に対する意識の違いをすごく感じます。狂言はなりきらないんです。この役にどんな過去があるかを掘り下げていくような役作りをしない。それは、狂言が笑いの芝居だからかもしれません。ドラマツルギーからいえばぶっとんでいても、面白ければ良いのが笑いなので。それを学べたことが自分にとって大きいですね。

── 狂言にもアドリブはあるんですか？

セリフのアドリブはありませんが、間や言い方にはたくさんあります。狂言には演出家がいないですし、上演回数の多い作品は稽古をしないので、本番で相手がいつもと違う間でくることがある。そのときは、こっちもそれにあわせて返します。セリフは一緒でも、役者たちの意識ではけっこう即興的かもしれません。

人生の2時間をただ、ただ、笑ってほしい。

── お祖父さんの二世千之丞さんは「狂言界の異端児」と呼ばれ、新劇やオペラなど幅広い活動をされていました。2018年に「千之丞」を襲名して、何か変化はありましたか？

よく聞かれるんですけど、特にないんですよね。気負いはなかったです。ただ、祖父がやってきたことを思うと、僕はまだまだハチャメチャ度が足りないと思っています。千之丞になったからには、もっと人から批判されることもやらなきゃいけないかな（笑）。

── 今回は現代コントと新作狂言を一緒に上演するということで、これまでにない舞台になりそうですね。ぜひ見どころを教えてください。

笑いが好きな人に、テレビの笑い以外にも笑いの芸能がたくさんあることを知ってほしいですね。難しく考えずにただ笑ってもらえるような作品ばかりなので、劇場に来て人生の2時間を楽しく過ごしてほしいです。内容については……見てのおたのしみです（笑）。

聞き手・文　笹山敬輔（演劇研究者）

茂山千之丞 インタビュー

プロフィール
三世 茂山（しげやま） 千之丞（せんのじょう）
<作家名：茂山童司>

1983年4月2日生まれ。茂山あきらの長男。父および祖父二世茂山千之丞に師事。1986年『魔法使いの弟子』（NOHO（能法）劇団）で初舞台を踏む。2013年に自らが作・演出を手掛けるコント公演「ヒャクマンベン」、2014年には100年後の古典を目指す新作狂言の会「マリコウジ」の両プロジェクトを始動。現代劇に役者として出演するなど表現者としての新境地を切り開いている。2018年12月に三世茂山千之丞を襲名。2019年第37回京都府文化賞奨励賞を受賞。

公演情報

オーバード・ホール開館25周年記念
AUBADE小劇場2
ヒャクマンベン＋マリコウジ
◆作・演出：茂山童司
出演：茂山千五郎・茂山宗彦・茂山茂・茂山逸平・茂山千之丞ほか
◆日時：2021年8月17日（火）19:00開演
18日（水）14:00開演　（全2回公演）
◆会場：オーバード・ホール舞台上特設シアター
◆チケット：［全席自由・整理番号付き・税込］
一般：4,000円　U-25：1,000円
※U-25：鑑賞時25歳以下対象。ご入場の際、身分証の提示が必要です。
※未就学児入場不可。
◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

もとより狂言は、笑いの芝居なんです。

AUBADE HALL Presents **音楽入門講座「ピアノの巨人たちの肖像」**

「ピアノの巨人」たちの
秘密にせまる

3つのミニ講座

この秋にはじまる音楽入門講座のテーマは「ピアノの巨人たちの肖像」。神が愛した天才モーツァルトから、ピアノの詩人ショパン、鍵盤の魔術師リスト、神秘と色彩の匠ラヴェル&ドビュッシーまで、ピアノの歴史を彩る巨人たちが登場します。講座には、彼らの素顔がわかる、とっておきのエピソードもいっぱい！ その楽しさを少しだけご紹介しましょう。

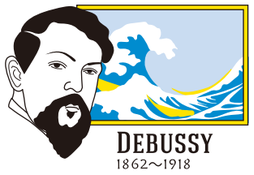
ショパンとリストは、親友？それともライバル？

芸術の都パリで青春時代をともに過ごしたショパンとリスト。当時のヨーロッパのサロンでは、貴族たちが各々ひいきのピアニストたちを競わせて優劣を決めるという「ピアニスト対決」が盛んに行われていました。

リストは当時の名ピアニスト、タールベルクとの対決が有名ですが、パリ・サロンの花形ピアニストだったショパンとリストは、よく連弾で一緒に演奏会に出演したものの、けっして対決はしませんでした。繊細きわまりないショパンと、超絶技巧で観客を失神させたリスト。ふたりは、まったくタイプの違うピアニストでしたが、それぞれの魅力を誰よりも認めあい、尊敬しあっていたのです。

「いま、リストがぼくの練習曲をぼくの隣で演奏している。自分の曲をどう演奏すればいいか、ぼくは彼から盗み取りたい」とリストの演奏に舌を巻いたショパン。「ショパンは、まさに魔術的な存在でした。彼に比肩するものは誰もいません。芸術の空には、ただひとり彼のみが光り輝いているのです」とショパンを讃えたリスト。ピアノを極めた巨人だけが見えた世界を、彼らは知っていたに違いありません。

色彩と音をきわめたふたりを結び付けた、東洋の神秘



近代フランスを代表する作曲家ドビュッシーとラヴェル。ピアノ音楽は、このふたりの巨匠によって、さらに色彩感あふれるものになりました。ふたりが生きた世紀末のヨーロッパは、アジアの美術品、陶器、玩具などが大量にヨーロッパに輸入され、人々の東洋への憧憬をかきたてた時代でもありました。

このふたりの音楽にも、じつは日本の美術品が大きな役割を演じています。葛飾北斎の「富嶽三十六景」のなかの有名な『神奈川沖浪裏』を書斎の壁に飾り、いつも眺めていたほど日本の浮世絵を愛したドビュッシー。彼は、浮世絵の色彩感とそこに流れる躍動感や時間に心を奪われたのです。一方、ラヴェルは、自宅のサロンを、中国製工芸品や日本趣味に囲まれた東洋趣味のサロンに仕立て、そこで夢想に耽りました。小さな椅子や凝った装飾品、小さい陶器のピアノなど、まるでおもちゃ箱のような部屋。ラヴェルの神秘的な音楽は、そのような世界から育まれたものでもあったのです。

文：浦久俊彦

天才モーツァルトが苦手だった「ある楽器」とは？

神に愛された天才モーツァルト。作曲するときは、まるで絵を見るように、全体の構想がぱっと頭に浮かび、あとはそれを楽譜に書き写すだけだったといいます。そのせいか、彼が書いた楽譜には、書き直したあとがほとんどありません。でも、そんな天才にも、じつは苦手な楽器がありました。

モーツァルトは10歳の頃まで、なぜか本能的にトランペットの音に恐怖を感じていたのです。それを気にした父レオポルドは、あるとき友人に頼んで息子のまえで思いっきりトランペットを吹いてもらいました。すると、それを聴いた少年モーツァルトは真っ青になって、床に倒れそうになったのです。ところが、さすがは音楽の天才！彼はその後、見事にこの恐怖症を克服して、12歳のときには旅行先のウィーンで一曲の『トランペット協奏曲』を書き、それはウィーンのある孤児院の教会で演奏されて、大喝采を浴びたということです。

公演情報

インターネット配信あり！ LIVE

AUBADE HALL Presents
音楽入門講座「ピアノの巨人たちの肖像」

◆講師：浦久俊彦（文筆家・文化芸術プロデューサー）
◆講座日程［全3講座］※全日程15:00開演

〈第1回〉	〈第2回〉	〈第3回〉
10月16日（土）	11月7日（日）	12月5日（日）
「ショパンとリスト」	「ラヴェルとドビュッシー」	「モーツァルトとウィーン」
ピアノ：塚田尚吾	ピアノ：丸山美由紀	ピアノ：福間洸太朗

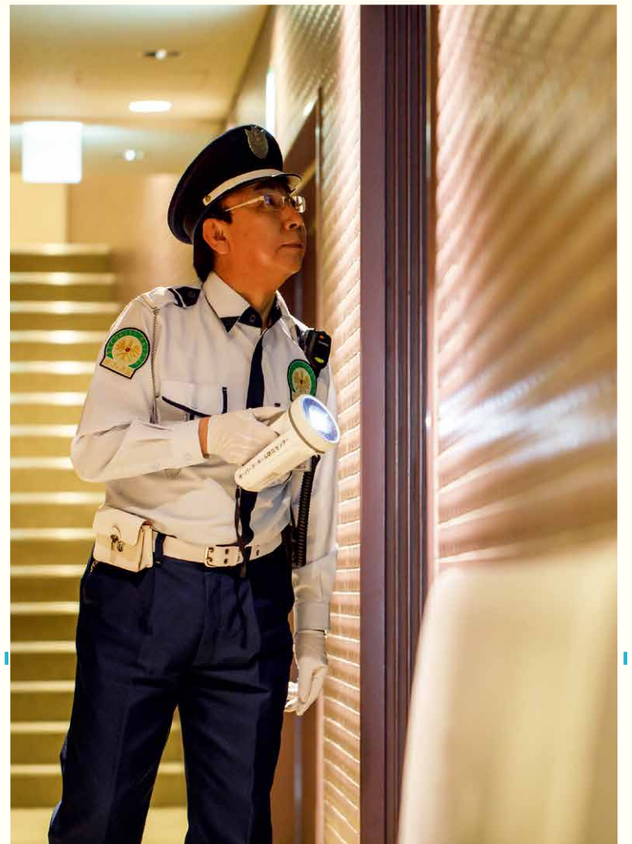
①会場で直接受講する〈各回限定 先着約100席〉
◆会場：富山市民プラザ アンサンブルホール
◆ホール受講料：［全席指定・税込］
一般 / 1講座 1,500円　ジュニア / 1講座 500円
※ジュニアは小学生から高校生までが対象です。未就学児入場不可。
◆チケット発売日：アスネット会員先行 7月31日（土）のみ
一般発売 8月8日（日）〜
◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

②インターネット配信でオンライン受講する
◆配信サイト：チケットぴあ「PIA LIVE STREAM」
◆オンライン受講料：1講座 500円（税込）※別途手数料あり
◆視聴券発売日：8月8日（日）〜

何も起きないを、守る。

オーバード・ホールには、今朝もクラシック音楽をBGMに穏やかな時間が流れている。何も起きないことが当たり前であるかのように。だが、その平穏は誰かの働きによるものかもしれない。同施設の「安全・安心」のために目を配り、気を張っているのが、施設警備の警備隊長を務める田島勇治だ。

警備隊・隊長
田島勇治



オーバード・ホールを24時間体制で。

防災センターを拠点に火災や盗難、事故などのトラブルから、施設とそこにいる人々の安全を守ることが、田島の役割だ。そのために、防犯カメラのモニター監視や、施設内外の巡回などを徹底している。特に重視しているのは、人や建物に危害を及ぼしそうな不審者がいないか、消防設備が正常に稼働しているか。「異常発見時にはすぐ対応できるよう、いつでも違和感に敏感でなければなりません」。24時間勤務での仮眠中も神経が休まることはない。日常的な警備のみならず、上演中の地震や火災など万が一に備えて、2,000人規模の観客を安全かつ確実に避難させる訓練にも真摯に取り組んでいる。

人のこころも、守る。

モニターには、時にホールの長椅子に横たわっている人が映り込むことがある。気分が悪いのかもしれないと、すぐさま現場に直行して声をかける。その際の具体的なマニュアルはないが、相手の心に寄り添って話すことを大事にしている。もしものために、医療機器「AED」の使い方も体得済みだ。また、人の出入りを把握するための受付業務でも、スマートな応対が信条。人の顔と名前をすぐ覚えるのも特技だ。職務を全うすることが、温かいふれあいにもつながっている。

笑顔のためなら、何歩でも。

今の仕事に就いて8年目。最初は迷路のように感じた巡回経路も、今では足が勝手に動く。「慣れと過信が大敵」と己を戒めることも仕事になってきた。また、終演時、帰路を急ぐ観客への気遣いも忘れない。多い時には約2,000人が一気に移動するため、場内案内に合わせてエスカレーターの昇降切り替えをスムーズに行うことで、人の流れを巧みにコントロールしている。屋外には車道との境界線にポールを設置して、事故を未然に防いでいる。「楽しい思い出を持ち帰っていただけるよう、なくてはならない裏方でありたいですね」。そう話す彼の万歩計が、2万歩超えを告げる。明日も強い気持ちで、何も起きないことを守る。

田島勇治（たじま・ゆうじ）：警備隊長。2015年よりオーバード・ホールの警備に従事し、隊長歴は7年。警備歴は通算17年で、以前は現金輸送に携わっていた。施設警備検定2級、交通警備検定2級、貴重品警備検定2級、施設警備指導教育責任者を取得。

主催公演情報

8／5 Thu　10／7 Thu　市民のためのランチタイム ジョイフル コンサート

◆ 時間＝11：50〜12：50
◆ 会場＝富山市民プラザ　アトリウム
◆ 入場無料・要事前申込み
◆ 定員＝100名程度（申込多数の場合は抽選）

Vol.78（キッズコンサート） 8/5（木）
◆ 出演＝広瀬美和（ソプラノ）、酒井由香（ソプラノ）、諸見里亜由美（フルート）、内田陽子（ピアノ）、野替亜紀子（パーカッション）
◆ 申込期間＝7月19日（月）〜26日（月）

Vol.79 10/7（木）
◆ 出演＝別本裕子（ヴァイオリン）、上森菜未（チューバ）、中野悠里（ピアノ）、中川佳美（ピアノ）
◆ 申込期間＝9月21日（火）〜27日（月）

オーバード・ホールHP内「ジョイフルコンサート」特集ページよりお申込みください。☞

9〜12月（全14回）　オーバード・ホール アウトリーチ企画 ウィークエンド・コンサート 2021

街なかへ、海辺の町へ、山あいへ――。
あなたのまちへ音楽をお届けします。

◆ 日時＝9〜12月（全14回）
◆ 会場＝市内各地区
◆ 入場無料・要事前申込み

詳細はオーバード・ホールHP内「ウィークエンド・コンサート」特集ページをご覧ください。☞

9／8 Wed　宝塚歌劇花組全国ツアー　富山公演

花組トップコンビ、柚香光・星風まどかのお披露目公演！

© 宝塚歌劇団

◆ 出演＝柚香光、星風まどか ほか
◆ 演目＝ミュージカル・ロマン『悲しみのコルドバ』、パッショネイト・ファンタジー『Cool Beast!!』
◆ 開演＝13：30／18：00
◆ 会場＝オーバード・ホール
◆ 料金＝［全席指定・税込］
S席 8,300円　A席 5,500円　B席 3,500円

好評発売中

9／11 Sat・12 Sun　AUBADE HALL Presents　開館25周年記念「INFINITY」関連企画 T/IT：不寛容について

メディアアートと身体を融合させ、2021年の社会が抱える問題を「寛容／不寛容」という切り口から考察する作品。

◆ 監督・照明＝藤本隆行　◆ 振付＝鈴木ユキオ
◆ 出演＝田中遊、長良将史、合田有紀、野村香子、小倉笑、辻本佳
◆ 音楽＝山中透
◆ ドラマトゥルク＝シンヤB
◆ 開演＝9/11（土）14：00／18：00
9/12（日）13：00／16：00
◆ 会場＝富山市民芸術創造センター 舞台稽古場
◆ 料金＝［全席自由・整理番号付き・税込］
一般 3,000円　U-25 1,500円

一般発売日：8月8日（日）〜

9／18 Sat　11／14 Sun　桐朋アカデミー・オーケストラ 特別演奏会

◆ 開演＝14：00
◆ 会場＝オーバード・ホール
◆ 料金＝［全席指定・税込］一般 3,000円

9/18（土）
◆ 指揮＝尾高忠明
◆ ソプラノ＝中村恵理
◆ 曲目＝交響曲第5番（ショスタコーヴィチ）ほか

11/14（日）
◆ 指揮＝デリック・イノウエ　◆ ピアノ独奏＝鐵百合奈
◆ 曲目＝交響曲第1番「巨人」（マーラー）ほか

好評発売中

10／10 Sun　柳家三三 独演会

落語界随一の技巧派、柳家三三がたっぷり聴かせます。

◆ 出演＝柳家三三、瞳ナナ ほか
◆ 開演＝14：00
◆ 会場＝婦中ふれあい館　ふれあいホール
◆ 料金＝［全席指定・税込］一般 3,000円

会員先行発売日：7月24日（土）のみ
一般発売日：8月1日（日）〜

ワークショップ・講座

8／7 Sat　AUBADE HALL Presents　開館25周年記念「INFINITY」関連企画 乗越たかお コンテンポラリーダンス講座「踊ってみる」

コンテンポラリーダンスの伝道師、乗越たかお氏による、ダンスをもっと楽しむための講座。最終回のテーマは「踊ってみる」。「世界にひとつだけの自分の身体に眠っている、自分だけの動き」を発見しよう！

◆ 開演＝13：00
◆ 会場＝富山市民芸術創造センター 舞台稽古場
◆ 料金＝［税込］一般 1,000円　U-25 500円

好評発売中

8〜11月　AUBADE HALL Presents ワークショップ「WE♡MUSICAL」2021

トライアルコース〈8クラス開講、各クラス全2回〉

初心者、未経験者大歓迎の、2日間完結の体験クラス。8つの多彩なプログラムで、ミュージカルの魅力を存分に！

◆ 講師＝本間憲一、松本和宜、境田桃子、王子菜摘子、庄野早冴子
◆ 会場＝富山市民芸術創造センター
◆ 対象＝小学1年生以上の方
◆ 定員＝各クラス20名程度
◆ 受講料＝各クラス2,500円（全2回分）
◆ 申込締切＝7月28日（水）
◆ 申込方法・詳細＝オーバード・ホールHP内「WE♡MUSICAL」特集ページよりお申し込みください。☞

9〜11月　AUBADE HALL Presents コミュニティ・アーツ・ワークショップ 2021

さまざまな障がいのある方たちとダンスを通じてふれあい、いつもと違う空間や時間を共有しませんか？こころが、からだが、感じるままにおどりましょう。

◆ 会場＝富山市民芸術創造センター 舞台稽古場
◆ 定員＝各回15名ほど（申込多数の場合は各回抽選）
◆ 参加料＝各回500円（障がいのある方の付き添いの方1名は参加無料）

その1「みんなでおどろう！こども部」&「みんなでおどろう！おとな部」
◆ 日時＝ 9月26日（日）13：00「こども部」／15：00「おとな部」
10月24日（日）13：00「こども部」／15：00「おとな部」
◆ 対象＝こども部：知的障がい、発達障がいのある児童・生徒、そのご家族・ご友人
おとな部：知的障がい、発達障がいのある18歳以上の方、そのご家族・ご友人
◆ 申込期間＝8月19日（木）〜31日（火）

講師：なかむらくるみ（ダンスアーティスト）

その2「おどるって、とってもノンバーバル！」
◆ 日時＝11月28日（日）13：00／15：00
◆ 対象＝高校生以上で、聴覚に障がいのある方、言語コミュニケーションが苦手な方、このワークショップに興味のある方
◆ 申込期間＝10月14日（木）〜26日（火）

Photo KATO TOMOKO

※申込方法・詳細はオーバード・ホールHPをご覧ください。

U-25：25歳以下対象の入場券。入場の際に身分証の提示が必要です。　※年齢による入場制限については、各公演で異なります。

※情報は2021年7月7日現在のものです。新型コロナウイルス感染対策を徹底して上演します。感染状況によっては公演の開催に変更が生じる場合がございます。
ご来場前にはオーバード・ホール公式HPで最新情報をご確認いただきますようお願いします。

AUBADE HALL calendar 2021.8〜10

8	1（日）	オーケストラ・アンサンブル金沢 富山特別公演with合唱団OEKとやま　【問】石川県音楽文化振興財団：076-232-8111 アスネット
	9（月・振）	郷ひろみ HIROMI GO CONCERT TOUR 2021 “Beside The Life” ～ More Than The Golden Hits ～　【問】サンライズプロモーション北陸：025-246-3939
	10（火）・11（水）	富山県立呉羽高等学校フィルハーモニー管弦楽団 第37回定期演奏会　【問】富山県立呉羽高等学校：076-436-1056
	16（月）	AUBADE小劇場1「めにみえない みみにしたい」　【問】富山市民文化事業団 総務企画課：076-445-5610 アスネット
	17（火）・18（水）	AUBADE小劇場2「ヒャクマンベン+マリコウジ」　【問】富山市民文化事業団 総務企画課：076-445-5610 アスネット
9	4（土）	EXILE ATSUSHI　【問】キョードー北陸チケットセンター：025-245-5100
	8（水）	宝塚歌劇花組全国ツアー　富山公演　【問】イッセイプランニング：076-444-6666 アスネット
	18（土）	桐朋アカデミー・オーケストラ 特別演奏会　【問】桐朋学園音楽部門 富山キャンパス事務部教学課：076-434-6800 アスネット
	20（月・祝）	アラキバレエスタジオ 35周年記念公演「くるみ割り人形」　【問】アラキバレエスタジオ：0766-56-1175（代表）
	22（水）	劇団四季 The Bridge ～歌の架け橋～　【問】劇団四季 全国・新都市営業部 0570-008-110 アスネット
	23（木・祝）	MISIA 星空のライヴ ACROSS THE UNIVERSE　【問】キョードー北陸チケットセンター：025-245-5100
	26（日）	絢香　15th Anniversary Tour 2021 ～もっといい日に～　【問】キョードー北陸チケットセンター：025-245-5100
10	2（土）	ディズニー・オン・クラシック まほうの夜の音楽会2021　【問】サンライズプロモーション北陸：025-246-3939
	22（金）・23（土）	桐朋学園大学院大学 桐朋アカデミー・オーケストラ コンチェルト実習第1期・第2期総合公演　【問】桐朋学園音楽部門 富山キャンパス事務部教学課：076-434-6800

アスネット…アスネットチケット取扱い。

チケット購入方法

アスネットカウンターでお買い求めください。

インターネット
アスネットオンラインチケット
www.aubade.or.jp 24時間予約可能
※ご利用の際には会員登録が必要です。

電話予約
窓口販売
アスネットカウンター（オーバード・ホール1F）
TEL. 076-445-5511
10：00〜18：00
定休日：月曜（月曜が祝日の場合、翌平日休み）

オーバード・ホール会員システム「アスネット」

お得に楽しくシアターライフを満喫するためのオーバード・ホール会員システム。
ご登録いただくと、インターネットで24時間チケットのご予約が可能です。
「アスネット」には、「アスネット会員」「メール会員」2種類の会員システムがあります。

アスネット会員（年会費：1,800円）　※特典1、2については1公演につき通常4枚まで。対象外の公演もございます。
- 特典1　公演チケットの先行販売
- 特典2　公演チケットの割引販売 10%OFF
- 特典3　Mite Mite や公演情報の送付

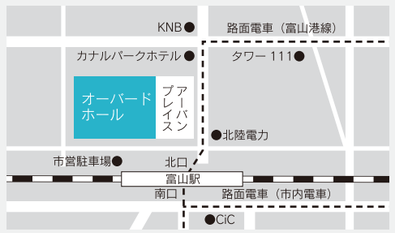
メール会員（年会費：無料）
- 特典1　公演情報のメルマガ配信

入会方法
- インターネットからお申込（オーバード・ホール HPより）
- アスネットカウンター窓口でのお申込（オーバード・ホール 1F）

オーバード・ホール公式SNSでは、主催公演などの最新情報を随時アップしています。公演の舞台裏など、普段は見られない写真も盛りだくさん！ぜひフォロー＆いいね！してください♪

http://www.aubade.or.jp
オーバード・ホール
最新情報はHP をご覧ください

交通のご案内
鉄道利用：富山駅下車、北口正面から徒歩2分
航空利用：富山空港よりタクシーで約25分、バスで富山駅まで約30分
お車利用：北陸自動車道 富山I.C.出口から約20分



オーバード・ホール（富山市芸術文化ホール）
〒930-0858 富山県富山市牛島町9-28
TEL.076-445-5620

ミテミテ69- 2021.Summer号　発行日：2021年7月19日　発行所：公益財団法人 富山市民文化事業団 TEL.076-445-5610　企画・編集：Mite Mite編集室　Design：CROSS　Cover Photo：Gaku Imadera

始まりの前に

演劇やダンスやミュージカルなど、舞台上で繰り広げられる世界の魅力もさることながら、劇場空間そのものも、私は好きだ。いつまでも観続けていたいと思いながら、終わって椅子から立ちあがる瞬間、美しいドレス姿から粗末な衣服に戻ってしまう灰かぶり姫のような気分になる。客が三々五々散っていく広々した客席は、さびしく恨めしいが、翌日の開幕のベルをひっそりと待つ、無人の椅子のなまめかしさが漂っている。

けれど去年から今年にかけて、コロナ禍で公演の中止を余儀なくされた劇場も多く、そういう時の暗い場内は、ただ、椅子がぎっしり居並ぶだけの無機的な空間だろうと思う。

劇場とは集団で夢見る場所。一人一人が別々の見方や感想を抱くと思うけれど、皆が一緒になって舞台を見つめることが、やはり大事なのかなと思う。ライブ配信され、家で一人で観ていても面白さは半減する。

ところで、母から聞いた、忘れられない話がある。母は戦中世代で、女学生の時、学徒動員で軍服を縫ったり、軍の領地に野菜を植えたりしていた。その時の大学生のリーダーが父だった。二人は戦後に結婚。すぐに私が生まれた。父母はつき合っていた間、映画や音楽会によく行ったらしい。皆が文化に飢えていた時代で、結婚後に父は、母をねぎらう意味もあったのか、クラシックの演奏会のチケットを買ってきたという。母は赤児だった私をおぶって、久しぶりに父と連れだって出かけた。席について、いよいよ演奏が始まる直前に、母はやっと気づいたという。

この子が泣きだしたらどうしよう……。

母は自分の愚かしさに青ざめた。結局父が静まり返った客席を抜けだし、廊下で演奏の間、私をあやしてくれたようだ。その思い出を話してくれた時の母は、はるか昔のその衝撃がさめやらない様子だった。今は二人とも、いなくなってしまった。若い母はその時に何の曲を聴いたのだろう。尋ねそびれたのを悔やんでいる。

文：井坂洋子

井坂洋子 Yohko Isaka：
詩人。1949年、東京生まれ、上智大学文学部卒。中原中也賞選考委員。詩集に『地上がまんべんなく明るんで』（高見順賞）、『箱入豹』（藤村記念歴程賞）、『七月のひと房』（現代詩花椿賞）など。エッセイ集に『はじめの穴　終わりの口』、『黒猫のひたい』、『詩はあなたの隣にいる』、『詩の目　詩の耳』など。最新刊に『犀星の女ひと』がある。